

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0172000283		
法人名	株式会社道央ケアセンター		
事業所名	グループホーム つつじ		
所在地	小樽市朝里川温泉2丁目694-13 (電話) 0134-51-4830		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】 (21年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 5 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	28 人	常勤 6人、 非常勤 22人、 常勤換算	11.29人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～37,000円	その他の経費(月額)	光熱費他 20,000円 暖房費(10～5月) 8,000円
敷金	有()円・ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (3月 11日現在)

利用者人数	17名	男性 2名	女性 15名
要介護1	6名	要介護2	6名
要介護3	4名	要介護4	0名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 86.2歳	最低 71歳	最高 96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東小樽病院、中垣病院、朝里整形外科内科、朝里病院 他
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉街の一角にある豊かな自然環境のなかに開設されたホームである。開設当初は申し込みが多く、地域貢献の必要性を感じて、隣接に2ホームも開設し、協力体制で運営している。広い敷地を有し、裏山、芝生、中庭、畑があり、小動物も飼育され、利用者は自然の流れのなかで、生き生きと暮らしている。職員の勤務体制が充実しており、職員は落ち着いた穏やかな声かけで対応し、利用者の能力を見極め自立支援に取り組んでいる。また、職員の研修や資格取得を推奨し、職員の育成に取り組み、ホームのサービス向上に活かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題とされた運営推進会議のメンバーや協議内容の拡大、ホーム便りの作成、家族からの意見要望の反映は改善計画シートを活用して取り組んでいる。地域密着型理念の策定は検討中で、重度化の方針作成については継続し、今後の取り組みに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、職員各自が関係する項目を振り返りながら点検をして各自の自己評価表を作成し、話し合いを重ね、管理者がまとめてあげている。改善項目は、改善計画シートを活用して取り組みサービスの向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、従来の構成メンバーに老人クラブの会長を加えて、2ヵ月毎に開催している。会議内容は、ホームの状況報告のほかに、講師を招き認知症や感染症(ノロウイルス・インフルエンザ)の勉強会を開いている。外部評価については、毎回の会議で数項目づつ報告をし、意見交換をしてサービス向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 管理者は、運営推進会議への案内を家族全員に送り、参加をしていただき、意見や要望を伺っている。また、面会簿にも意見要望の記入欄を設けている。重要事項説明書に、内部、第三者の苦情相談窓口を明記し、家族に説明している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	町内会に加入し、秋の収穫祭や音楽会、夏祭りや小樽「雪あかりの路」などの地域やホームの行事にお互いに参加をして、双方向的な交流を重ねている。小学校の運動会、学習発表会、町内の地域防災の取り組みにも参加をし、地域ボランティアの方々とも交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に掲げた運営法人理念とケアサービスの目標とする五項目のポリシー（方針）を法人全体の目指すところとしており、ホーム独自の理念や地域密着型サービスとしての理念の策定には至っていない。	○	豊かな自然環境を有する地域の中で、安心した生活を支えるためのホーム独自の地域密着型理念を現在検討中であり、更なる取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎月のフロアー会議で確認し、社内研修で理念をテーマに年2回、具体的ケアについて話し合い、意見統一をしている。また、理念とポリシーはホーム内に掲示し、常に意識できるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、秋の収穫祭や音楽会、夏祭りや小樽「雪あかりの路」などの地域やホームの行事にお互いに参加をして、双方向的な交流を重ねている。小学校の運動会や学習発表会、町内の地域防災の取り組みにも参加をし、地域ボランティアの方々とも交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員各自が関係する項目を振り返りながら点検をして、各自の自己評価表を作成し、話し合いを重ね、管理者がまとめ上げている。改善項目は、改善計画シートを活用して取り組みサービスの向上に活かしている。		

小樽市 グループホーム つつじ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、従来の構成メンバーに老人クラブ会長を加えて、2ヵ月毎に開催している。会議内容は、ホームの状況報告のほかに、講師を招き認知症や感染症（ノロウイルス・インフルエンザ）の勉強会を開き、外部評価についての意見交換を毎回実施している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市の担当者に電話で問い合わせをしたり、市の窓口を訪れ、書類に関する事務手続きや、転倒などの事故報告及び事故防止への相談、介護保険関連などの相談を行ない連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは、主に、面会時に報告をしている。また、2ヵ月毎にホームでの暮らしぶりをお便りにして、写真やお小遣い帳の内容報告も同封し郵送している。ホーム便りを年2回発行して、職員紹介などホームのお知らせをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、運営推進会議への案内を家族全員に送り、参加していただき、意見や要望を伺っている。また、面会簿にも意見要望の記入欄を設けている。重要事項説明書には、内部、第三者の苦情相談窓口を明記し、家族に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員がゆとりを持った働きやすい勤務体制作りに努力し、離職はほとんど無い状況である。夜勤専属の男性職員を配置したり、計画作成日を設けたり等の様々な配慮をしている。また、ユニット間の異動は流動的で、頻繁に会う機会を作り、職員と利用者が全員馴染みの関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を毎月テーマを変えて開講し、職員全員が受講出来るように実施し、職員はレポート提出をしている。また、段階に応じて実務者研修や管理者研修などの外部研修の参加や、資格取得を推奨し勤務調整をして、職員育成に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、毎年、道内のグループホーム視察研修を実施し、ホームのサービス向上に活かしている。小樽セミナーや医療福祉関係者との学習会、協力医療機関や施設との合同学習会などに参加し、交流を重ねて職員のスキルアップに役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホーム見学を薦め、内容を説明して、職員や利用者とお茶や食事、レクリエーションを体験していただきながら、雰囲気馴染んでいただき、納得していただけるよう無理のない入居を薦めている。また、自宅訪問をして、暮らしぶりを伺い、ホームでの生活の参考にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の出来ること出来ないことを見極め、能力を引き出しながら、利用者の自信の回復につながる自立支援を目指している。また、利用者同士も互いに出来ないことを補いながら、協働生活を送っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までのその人らしい暮らしが継続できるように、生活場面の状況や趣味活動などを把握しフェイスシートに記載して、職員全体で共有し、利用者の意向に沿えるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	フェイスシートに蓄積した情報や日常的な会話の中で得られた利用者や家族の要望を参考に、職員間で十分な話し合いを行ない、利用者や家族の要望に対する課題を詳細に分けて、具体的なケアに結びつくような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、基本的に3ヵ月を目途に、サービス担当者会議でモニタリングやケアチェック、日常生活動作の状況を協議し、計画の評価をしている。見直し以前に状況が変わった場合は、直ちに計画変更を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の宿泊や体験入居などにゲストルームを利用いただいている。利用者や家族の希望により、かかりつけ医や他科受診の通院介助や送迎を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を継続するか、ホームの協力医療機関に変更するかを家族や利用者を確認し、希望に沿った支援をしている。週2回、協力医療機関から送迎バスが巡回しており、職員が通院介助の支援をしている。家族への報告も行き届いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、主治医や家族と話し合いを重ね、段階的に方針を共有し、安心して過ごせるよう支援しているが、対応指針の文書化については、まだ未整備です。	○	ホームとして重度化に伴う対応指針を具体的に文書化し、入居時に家族に説明し同意をいただくことが望まれる。状況に応じ段階的に関係者と話し合い、方針を共有しながら、最大限の支援に取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者への言葉かけや対応について、プライバシーや誇りの尊重に心がけ支援している。個人情報の取り扱いも、面会簿をカード式に変更する等、保護の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで希望に沿いながら過ごせるよう、食事や入浴、家事、趣味活動など、無理のないようにしながら支援している。		

小樽市 グループホーム つつじ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成や食材の買い出しは、運営法人が一括で行なっているが、裏山で採れる山菜や畑の収穫野菜などを調理して楽しんでいる。利用者は、積極的に台所に入り食事の一連の作業を職員と一緒にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のペースを大切に、一人でゆっくり入浴したり職員介助で入浴したり、備え付けのシャワー椅子を利用して支援している。また、夜間入浴は行っていないが、日中は希望により午前から入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶道教室(月1回)や書道教室(月2回)歌の会(週1回)を開き、利用者に楽しませている。また、お茶を嗜まれたり、詩吟をしたり、縫い物、計算や漢字、オルガンを弾いたり等、利用者に応じた支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩、庭の散策、芝生での日曜喫茶、お弁当持参の公園散歩、温泉での足湯等、利用者の状態により車椅子や車を利用しながら、外出支援をしている。年2回は、お花見や紅葉狩りで遠出をして楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため、20時以降は外玄関の施錠をしている。日中は、訪問者は自由に入れるが、利用者の安全配慮のため、内ロックをしている。ユニット間は自由に行き来が出来、階段は見守り支援をしている。		

小樽市 グループホーム つつじ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力をいただき、避難訓練を実施している。他に、自主訓練や夜間避難訓練を実施し、隣接しているグループホームと協力体制を整えながら、安全に避難できるよう訓練している。救命救急の講習も職員全員が受講している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事は毎食ごとに摂取量を把握し記録している。食欲の無い利用者には、時間をずらしたり、好みの物で補ったりして必要な食事量を確保できるよう支援している。一日の水分摂取量も必要量が確保できるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は全体的に広くゆったり設計されている。リビングの大きな窓からは、四季折々の風景が眺められる。1階2階随所に様々な工夫が見られ、2階台所は出入りしやすく、1階台所は作業しやすいように工夫され、ユニット間での食事作りの協力体制がとられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広く、明るく、ゆったりとして、使い慣れた馴染みの家具や趣味の物を持ち込み、自分の時間を過ごせる居心地の良い空間になっている。トイレ付きの和室のお部屋では、利用者が布団の上げ下げも行なっていたいっている。		

※ は、重点項目。